

## \*\*\* 防災訓練が実施されました \*\*\*

近年は風水害・地震災害が多発し、本年7月初旬には、台風5号の影響で、殊に九州北部で、警戒レベル4、5という状況下、嚴重な警戒をするとともに「少しでも命の助かる可能性の高い行動をとってほしい」との気象庁予報課長の厳しい談話が報道されました。

防災訓練は、2019（令和元）年 7月21日 平塚市災害対策課から2名、自治会の組長、役員、プロモート会員あわせて50名ほどの方々が、寺田縄自治会館に集合しました。



3月、各戸に配布された「洪水ハザードマップ」お持ちでしょうか？ 今回のテーマは、このマップの見方、使い方が中心でした。私たちの住む寺田縄は「金目川水系版」に示されています。

マップを開いて、寺田縄地域に目をやると、水田を除く居住地域は、ほとんどが「オレンジ色」です。

最大規模の雨降りによって、金目川水系の河川が氾濫した時の被害状況です。オレンジ色は「50cmを超えて3m未満」の浸水の深さを示します。3mの深さは、一般家屋の1階が水没してしまいます。

マップには、「自宅の水害リスク」、「避難の方法」を記入する欄があります。加えて、「指定緊急避難場所＝金田小学校」が示されています。小学校周辺も水害リスクは「オレンジ色」です。

自宅を離れ、小学校へ避難する場合、「50cm」の水深（膝ぐらいの深さ）の冠水では、雨の降る中、大人でも歩行が困難になります。また、学校までには、「古川」、「農業排水路」が走り、「マンホール」は見えにくくなります。危険度が高まります。この場合、小学校への避難ではなく、屋内でより安全な場所、例えば、2階に避難することも考えられます。

避難は、「早め、早めに」と指摘されます。殊に、「高齢者等避難に時間を要する人たち」は、周辺の状況が悪化する前に避難行動をとることが必要です。手助けも欠かせません。

台風は、発生時期・場所や進路の予想を報道で知ることができます。テレビ・ラジオでの視聴、パソコン・スマホでは「平塚防災気象ウェブ」で“東橋付近の状況”、“気象庁のHP”で“大雨・洪水警報の危険度分布”等、知るべき情報を得て、避難行動につなげ、身の安全を守ってください。

マップには「マイ・タイムライン」の記入欄があります。平塚市からの発令を受けて、「ご自身やご家族」が「どのような避難行動」をとるかを想定して記入します。

「洪水ハザードマップ」には、具体的な情報が数多く載せられています。マップを開き、家族、友達、近所の人たち等と話合い、マップを正しく理解し、協力し、いざという時、落ち着いた行動がとれるようにいたしましょう。是非、「洪水ハザードマップ」をお開き下さい。

（寺田縄自治会長 久光陽一、防災会代表 片山興大）

## 防災訓練の様子

於 寺田縄自治会館



平塚市災害対策課の佐藤さん・岩井さんから「洪水ハザードマップ」の見かた・使いかたの講義を受けました。

マップを机上いっぱいに関き、説明を受けながら、内容を確認しました。

ソーレ平塚からも参加されました。

